

出るくいは無 限の可能性をひ める大事件である

沢田：まず初めに、三月キャンプをやるやらんという話まで出てたのに、それに対するはっきりした総括も出さなまま、五月にまたキャンプをやったというのはどういうことじゃ。

尾関：今井君が作った三月キャンプの報告書に、はっきり「キャンプとして来たら追い返す」というようなことまで書いた。たんなり、キャンプに対する今井君の批判のうちのはどこに根拠してあるねん。そこではキャンプ・リーダーの問題として出されてるようやけど……。

今井：結局は、キャンプを計画したり、呼びかけたものが、それっきりでキャンプが始まって、誰もこっちへ来ないし……。最後は自分らが世話することになって……。

て。自分は最初からキャンプには賛成ではなかったし。

沢田：それは？

今井：ここは別にキャンプに来てもらわなくてもやっていけるし、キャンプに来てもらっても何も与えることがないし……。報告書にも書いたように、ぼくの友達として二、三日なり泊りに来てもらうんではないんやないかと思うんじや。

尾関：三月のキャンプのミーティングの時に、ぼくはそれとまるで逆のことを話したんや。すなわち、ぼくたちのここでの出会い、見知らぬ同志がキャンプとかの機会て知り合うということ、それを非常に大事にしたいんや。だから、たとえば山岸会の「特講」のような、なんか備北に来ることがその人にとって決定的な事件になるようにしたいと思う。しやから、なんか慣れ合い的に友人として泊まりに来るといふのに逆に抵抗を感じる。むしろ友人を「客」に押しとどめておくこと、人間関係の主人と客

という関係に押しとめておくことになつてしまふのんちやうかと危惧する。出会いを無限大の可能性として発展させたい。ワーク・キャンプはその場と考えている。

ナンデ、 キャンプをしたんの

沢田：話を元に戻して何で今度のキャンプをしたんかな？

秋岡：自分は今度のキャンプを呼びかけた人間の一人やけど、援農とか、共同体とかと関係なしに運動としてワーク・キャンプをしたんや。最近、関係革命なんっていう言葉をよく使ってるけど、そのための場としてのワーク・キャンプを考えている。

沢田：しやけど、三月のキャンプででた問題は、キャンプが共同体の常駐者の生活に負担になってへんかということや。

今井：ぼくは今度までできるだけキャンプを無視することにしてる。村瀬：なんか、常駐者とキャンプがバラバラみたくてこれでもいいの

かな。

尾関：いや、それは、やあないと。思う。キャンプをするたびに共同体の常駐者が全員キャンパーにならなかんといふことでは身体もたへんぞ。

沢田：村瀬さんはキャンプのことどう考えてるんかな。

村瀬：ワーク・キャンプは、共同体の中にある自分にとって共同体の外にいる人に接する機会だし、運動するためには、ワーク・キャンプを機会にいろんな人と関係、連合する必要があると思う。

沢田：共同体の常駐者がみんなキャンプに参加しないようなキャンプというのがあったとしたら、どうなるんやろ。場所だけ共同体を借りるといふような……。

尾関：とにかくキャンプが共同体の常駐者の一人の生活にでも負担になれば共同体がワーク・キャンプの場所として適当ではないんやろ。たださっき言うたんは、自分一人のキャンパーとしてキャン

プには参加せえへんけど、キャンプそれ自体には反対するというわけやないという場合なんやけど。

びしるの攻撃！！

沢田：今井さんの考えでは「びしるの百姓」になることが今の資本主義社会と闘うことになるということやけど……。

村瀬：たとえば、朝から晩までクタクタになるまで働くのが「びしるの百姓」だといふ考えであれば、それは現代社会の矛盾から全然でないことになる。というのは今の「びしるの百姓」が朝から晩までクタクタになるまで働かねばならないという事実が今の資本主義社会の矛盾としてとらえて、共同体がそうでないものを

目指す限り同じような矛盾存在としての「びしるの百姓」になつてもしょうがない。「共同体の自立」といふことをいうならば、今の百姓とちがうことをしてや、ていけなくてはだめだ。

沢田：今、京都で喫茶店を作る運動に関係しとるんやけど、それはまるで「どしろろうと」ばっかりで喫茶店を建て、経営していこうとしているんや。これなんかは「アマチュアリズム」というやつで、プロがその能力と知識を独占してわっている。それで構成されている社会に攻撃をかけることになっていると思う。

尾関：ぼくはプロとアマチュアという時、いつも、森進一の演歌とフォークゲリラのフォークのことを思い浮かべるんや。それで、自分がどっちを選ぶかと言われたら、ただ聞いているだけの歌よりヘタでもやっ、みる方を選ぶ。それが共同体的発想とちゃうやろか。

秋岡：話を発展させると、今井さんの「いっばしの百姓」という発想も今井さんの「社会的必要量」に対する考え方から出ているんやと思うんやけど、それに対して、アマチュアリズムでその「社会的必要量」満たすことができるか

という点に問題があるように思っけどなあ。

尾関：「社会的必要量」というのはどついつに決定されるかというのが大きな問題やと思うけど、これはこれからずっと考えていかなあかんと思う。その問題は結局「社会的必要量」を考えるのは「主観的意志」やと思うけど、それがいかに類生活の中で共同化できるか、普遍的意志に持って行けるかという問題やと思う。

村瀬：それに「社会的必要量」は相対的な把握方法しかできなくて、ぼくらが云っても、それは資本主義社会によって決定されると思える。

労働と遊びは紙一重?

矢野：ここで労働してみよ、みんな楽しく働いているという感じではあ、これがワークキャンプだからと思うけど、本当の百姓労働はそんなに楽しくやれるものかなという疑問がある。楽しい労働といふのは、遊びのように思える。

沢田：遊びや、たらなんであかんねん。だいたい今の社会で労働するといふことは、多かれ少なかれ体制に貢献しているんやないか。しやから、まじめに働いて会社にもらうべきことないで、そんな労働をしている自分らができることちゃうのんは、できるだけ労働をさぼること、機関車作、こたらそのボルトの一本でも抜いとくことちゃうか。

尾関：たしかにそれも一面としてあるけど、その他に労働というものは本質的に疎外や、しんどいもんやといふのもあるのんちゃうか。そんな労働から救われるために作るのんが、共同体ちがうか。

秋岡：それは前から感じてるんやけど、労働が本質的に疎外や、たらしく気がせえへんで、もう死ぬしかないとか。

村瀬：労働は本質的に疎外である一方へ楽しみが主である遊戯でもあるんや。こいつのは、ぼくら

が何で働くんやと、いつと、やはり創造の楽しみへ作ることの楽しみといふのが一番根本にあるように思う。

尾関：ちょっと話がそれるかも知れないが、百姓が朝から晩まで働くといふのは、百姓がまがりなりにも生産手段を所有しているからとらがつか。そこが決定的に普通の労働者との相違点のように思う。だから働いただけ自分の直持の利益になる。

村瀬：フランスの五月革命なんかでは農民が非常にラジカルにゼネストなんかをやったそうだけど、それはどこから来るのかな。

尾関：日本の農民の土地感覚といふのは、一種独特の執着心があったりなつかストライキをしたりはせえへんな。そやからその昔ながらの封建的意識を打ち破らんと権利を権利として主張するような農民にはならないですね。

村瀬：ぼくは前から「労働連合」のようなきことを考えてるんだけど


農民運動を考えると、農民はとと労働者意識をもって、労働者と同じような要求闘争をや、ていかないかんといふのがあ。それが労働連合の前提のようにも思える。

いつものことながら、キャンペーンのミーティングに結論はない。ただこれらが、今後いかに生かされ、試されていくかにのみかかっている。

You're my friend
Because you're you
And because I like you
you like I do!

You're my friend
Because you see
beautiful things
as many people miss...

—備北つづりカ教室より—



共同体地共有運動へのおさそい

土地共有から新たな歩み

あなたも未来の土地成金

キヤンパインズ

昨年春から、岡山県備北南拓の豊原でやり始めた備北共同体運動は備北の地に共同体を創出しようとするのを断念せざるをえざるようになりました。こういつ結末に致した最大の原因は、我々「キヤンパインズ」が持つていている、根本にあつたはずの「共同体」に対する考察が充分になされないうまに達み、その「みぞ」がどうしようもない不信感を生みだしてしまつたことです。また、生産手段である土地が特定個人によつて所有されていくことも大きな原因です。

これを第一期備北共同体運動の終結としてとらえ、今、新たに第二期備北共同体運動を創りだそうとしています。まず、そのために「キヤンパインズ」

入れなければなりません。ここに土地を購入する資金づくりのための一坪運動を呼びかけます。これは前回の失敗を教訓として、住かすためにも、みんなの土地をみんなでもやり始め、より多くの人に参加できる共同体運動として出発するための提案です。また、所有権使用権をばきりさせることも、考慮しています。具体的な運動のやり方、約束事は次の通りです。

①一〇〇〇〇〇円、のべ口数で坪数を決め、その坪数の土地に対する所有権をもつ。

②土地の管理権、使用権は備北共同体運動百人委員会がもつ。

③この積立金は他の目的（他の百人委員会）には決して使用しない。

④もし、土地が手にはいるまえ

に運動が消滅するようになつておれば出資した全額を返す。

⑤もし土地が手にはいつてから運動が消滅するようになつたことがあつた時は、出資額（のべ口数）に依じた坪数の所有権をもつ。

⑥その土地で余剰金がでるようになった時、もし出資者の必要、要請があれば返金する。しかし、でざるかぎり運動の拡張のために使う。

お初にお目にかかりきま。北の果てはストックホルム。以後よろしくおもしろおきを。おいどんはニヤンである。トナリに坐っているのは、はるばる「ホルム」の本場スウェーデンからやってくる男の名を BENGT. ERICSSON という 当年21才。プロントの髪ブルーのひとみ、身長180cm、体重60kg、バスト?cmのイカス男の子キヤンである。

日本へ来たのは、S.C.I.のホラ

ニティアとしてである。ロシアを通過して川で来たとか。スウェーデンでは、ホルム劇場を建てたかどうかは知らんが、建築技師だとうニヤ。家族は両親と兄の4人。みんなニヤ建築の仕事をしていて、ストックホルムに住んでいるとうニヤ。

ニヤンで日本に来た。一ワタシは、世界の人々と会いたいし言葉を学びたいから。それに今の生活は、まわりの人たちと分断され、金もつけにあくせくしている。そんなのがイヤで旅に出た。へ家は、建築技師の仕事が見つからなかったからなとうニヤ。日本に来たのは、スウェーデンから遠く離れているからだとうニヤ。

持参すべきことは、シヨウキと五目ならぬつまみこと。もちろん、おいどんがおしえた。二日目にして飛車、角を落すとあらわれ。一週間は、三度に一度は負ける。五目ならぬんぞは4連パイである。この賭のよきヨリだ

れかいわく「ビック」のシヨールぞや。」

「本場ホルム」から来たからさぞかし助平だろつと思つていたが、さにあらず。その言葉を耳にすると日本人の方が助平というか、欲求不満人でもいうような顔をする。ニヤロメりいたって紳士である。

五目ならぬをしていて「Not fair」といつて、勝てる手でも人が教えると使わぬニヤ。それを勝つたからこれ以上のむづかしいことは、おいどんのニヤン語では通じぬニヤ。しかしわれらに不可及な人物になりつつあることははたしか。備北共同体の状況に、主体的な判断と関わりをもつてくれることを約束してくれた。共同体をさく解つてくれている好人物である。だから先夜、酒を飲みすぎたことは言かないでくれと誓つたが、おいどんも言わぬことにする。

おいどんはニヤンである。彼はベンである。キヤン彼は、ベン所に行つたのだ。

第一号 5月22日

にゅうす 周借人共同体

II. 田植之實績 5月22日、鉄治と吟が、種張つて上の田の田植を完了する。吟さんの植えたところはまっすぐで見た目にもきれいだが、鉄治さんの植えたところはまるでダメ。

I. 新荘家の近くに売れそうなた土地発見。農協の大西参事の話によると、大谷部落の先に家付きで2反くらいの水田があり、また新荘家にのぼる途中に3反くらいの水田があるとのこと。まだ現地には行ってないので、なんともしえないが、両方の土地の行き来は自動車です。5分くらいなので、両方の土地が買えれば可能がある、と思う。

II. 土地探し報告... イイ田ンボなるか、40万(広島島の巻) 可能性のある所、その①広島県比婆郡高野

III. 鉄治、キツネらしきものを戸... 鉄治語るところによると、体長50~60cmで色はキツネ色、尾が太かったそうである。近所の人の話によると、キヤアキヤア鳴くそうである。先頃、この声を聞いていたので間違いないと思われる。ニワトリが食べられないよう、いっそうの注意が必要となろう。

IV. 吟氏、23日広島に向けて出発... 吟さんは水戸千恵さんの家を拠点として土地探しをするための出発予定。

V. 仲生君去る... 5月11日から来ていた東京府中「土ともぐら」の山吹仲生君は5月22日朝、松江へ向けて出発した。彼のフルースも土地を探しているとのこと。仲生君がいなくなつたので周借人共同体は2人になり23日にはついに1人になる予定。ウビシイ。

町から歩い、30分位の用拓。反当り5~6万円くらい。畑地で大根の産地。ただし広面積を買わねばならぬだろう。②口和町宮内大草に1町2反の水田あり。反当り20万円。これほどのくらいまで下げられるかというところ。それも家と土地を同じに買取りねばならないだろう。③口和町三原に向

拓、現在2戸(8戸程離村)。この辺なら反当り2万円までで買えそう。しかし山の中を歩いて一日かりになるので見に行けなかったが、一瞥可能性ありそう。

全般的に広島は地価が高い。日当りもよく水も豊富なのでなかなか工地区手難くないし、買手も多いとか。だから、このあたりで小面積の土地を手に入れたら、後に広げるのに大変だと思つた。今回あまり山の奥の方へ行けなかったが、川をいの上の奥の方にはあるかもしれない。山地は大変安く、反当り8千、3万円、高くても6万円とか。

(5月28日から自動車再度土地探しに挑戦。鳥根の過疎地へも足をのばす予定。)

第三号 6月3日
鉄治と吟の二人、25~27日まで、鳥根の方へ土地探しに行つた。広島の用拓の方は、話がまずくそのままにして、鳥根の方へ行き、過疎地であるY村という所で候補地を見つけた。役場の方で地主と話をしてもらえそうにして、一たん備北に帰り、31日から鳥根の方の土地探しに出かけた。そして1日もう一度Y村へ行き、役場の課長といっしょに候補地を訪ね、土地との交渉は村の有力者と地主の親戚に話を進めてもらうようにして来た。課長や有力者の話では土地は買えそうである。広さは、家と休憩地一町少々、約30万位。6月11日に地主と交渉してくれてつま

くいけば6月末には入植できそう。またそこがためでも次の候補地の話を進めてくれるようにしてある。今までのところ、ここが一瞥有力。

2. 夜、帰つて、たというしたい。土地の方は50%くらい期待してあいて下さい。鉄治と吟、まる4日、200kmほど中国山脈をマクマクにかけた報告である。

2. 夜、帰つて、たというしたい。土地の方は50%くらい期待してあいて下さい。鉄治と吟、まる4日、200kmほど中国山脈をマクマクにかけた報告である。

支金：九四、五三八円

支金：五、一九九円
(備北共同体へ入金)
◎百人委員会の部(23%)
収入：七、七、五七三円

◎連休キャンパの部
収入：二〇、六八一円

支金：九、三、〇三五円
支金：九、三、〇三五円
支金：九、三、〇三五円

支金：九、三、〇三五円